



平成 27 年 12 月 15 日

各 位

上場会社名 株式会社 ミロク
 代表者名 代表取締役社長 弥勒 美彦
 (コード番号 7983)
 問合せ先責任者 常務取締役 中澤 紀明
 (TEL 088-863-3310)

「2016 中期経営計画」策定に関するお知らせ

当社は、2016 年 10 月期を初年度とする 3 ヶ年のローリングを行い「2016 中期経営計画」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 「2016 中期経営計画」策定の背景

「2015 中期経営計画」におきましては、逆風の事業環境を想定し、将来の上昇局面において十分に飛躍できるよう経営基盤の強化に取り組んでまいりました。その結果、売上高 11,945 百万円、経常利益 880 百万円と初年度計画を上回ることができました。

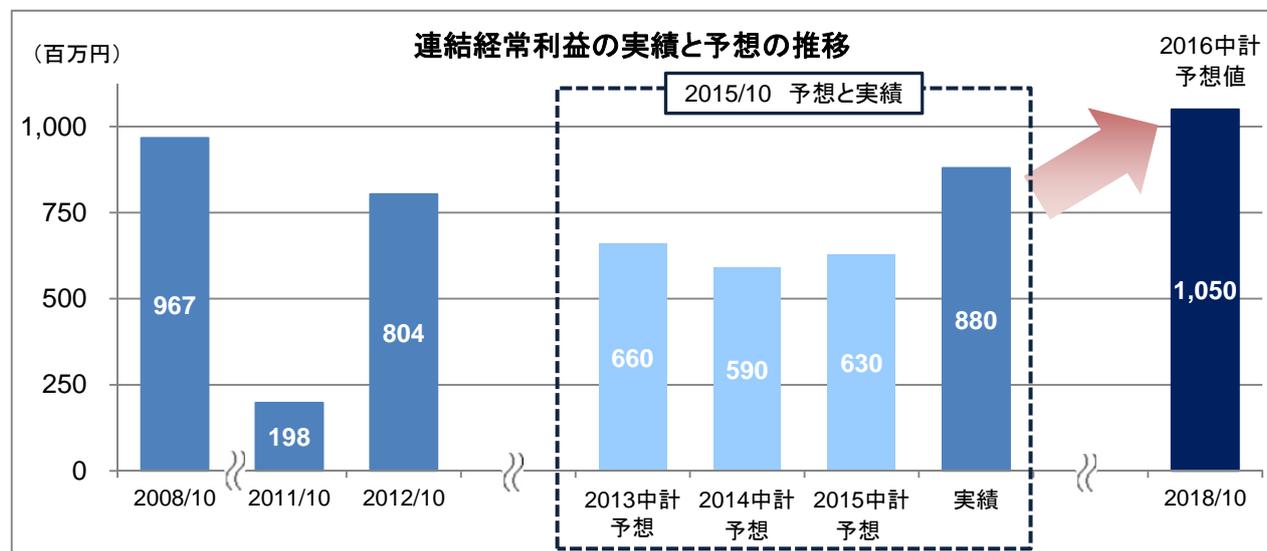
しかしながら、利益水準につきましては、過去最高であった 2005 年 10 月期の経常利益 1,641 百万円との隔たりは大きく、十分ではないと考えております。本計画につきましては、当社飛躍のきっかけになった米国ブローニング社との販売技術提携が 2016 年に 50 周年を迎える節目にあたり、その先の 50 年に向け、より高水準の利益成長は勿論のこと、最高益の更新を狙える強靱な事業基盤の構築を視野に入れ、策定いたしました。

2. 「2016 中期経営計画」の基本方針

「これまでに培ってきた他社に無い固有技術を強化して収益を確実に上げると同時に、新たな技術を開発して新規事業に結びつける」ことを引き続き中長期的な基本方針と位置付けてまいります。

猟銃事業につきましては、成長性及び収益性の両面で強固なコア事業であり続けるために、今後の取組みを加速させます。具体的には、米国市場、欧州市場の需要はブローニング社の販売戦略と相まって、現在の生産能力を超える受注が続くと見られ、本 3 ヶ年計画の初年度において、10 億円超（連結では約 12 億円）の設備投資を行う等、万全の態勢の構築を進めてまいります。

また、工作機械事業では、機械部門・ツール部門・加工部門を併せ持つ強みの発揮、自動車関連事業では、純木製ステアリングハンドル以外の分野への強力な推進をメインテーマに掲げ、ミロクグループ全体で利益の獲得に邁進いたします。



3. 事業別重点施策

① 猟銃事業

主力の米国市場は、2015年以降は調整局面が予想されましたが、2016年に大統領選挙を控え、また景気も好調を継続しており高水準の需要が続いています。また欧州市場についても、需要回復の兆しが見え始めてきました。このような環境のもと、当社最大顧客であるブローニング社は、市場占有率拡大という成長戦略を掲げており、当社としましては、これを事業成長のチャンスと捉え設計及び製造の品質向上、タイムリーな納品、受注能力の最大化に向けた諸施策に積極的に取り組んでまいります。

具体的には、新機種生産のためのスペース確保、既存製造現場のレイアウト変更、老朽設備の更新等を行い、生産の整流化を図り、生産効率の向上とこれに伴う受注能力の拡大、更にはロスコストの縮減等によるトータルコストの削減等に結び付けてまいります。

また、同時に市場の求める新製品の開発力強化にも注力してまいります。顧客の購買意欲を刺激する新製品・新技術の開発や原価低減を目指した量産設計企画の提案を行い、品質・価格の両面で市場での存在感を高め、魅力ある製品づくりを進めてまいります。

② 工作機械事業

工作機械事業は、主たる顧客である自動車業界が海外重視の能力増強を進めていること、ハイブリッド車の増加等による国内自動車販売の車種構成変化等の影響から、主力のガンドリルマシンの販売拡大は厳しい状況にあります。

このような環境のもと、機械部門では海外メーカーとの連携による東南アジア需要の獲得に向けた営業強化を図るとともに、加工部門ではあらゆる深孔明けニーズに応えることで、国内を主体に自動車産業から航空機産業や医療産業への顧客業界の拡張を図ってまいります。昨年新設した尼崎の加工工場の受注強化、既存加工工場の設備増設等を行い、売上及び利益の拡大に努めてまいります。

③ 自動車関連事業

主力である高級車向け純木製ステアリングハンドルは、開発・市場投入以来10数年が経ったこともあり、厳しい環境が続くと予想され、前期に引き続き原価低減と固定費削減を行い更なる経営体質強化に取り組めます。

中期的には主力製品の純木製ステアリングハンドルの売上回復に向け、純木製でしか出せない意匠や触感の伝わる製品・技術開発を進めるとともに、純木製ステアリングハンドルに次ぐ事業として、2016年夏に樹脂成形工場を新設、純木製以外の加飾ハンドルを生産開始予定です。またハンドル以外の加飾部品や住宅床材等の木製品分野について、顧客や製品を拡大すべく、案件開拓活動に積極的に取り組んでまいります。

4. 数値計画（連結）

単位：百万円

	2015/10期 実績	2016/10期 予想	2017/10期 予想	2018/10期 予想	(ご参考) 2005/10期(実績)
売上高	11,945	11,950	13,000	13,400	15,396
営業利益	801	840	940	970	1,361
経常利益	880	920	1,020	1,050	1,641
当期純利益	526	580	640	660	1,028

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上